

中玉トマト新品种「ちばさんさん」の栽培法



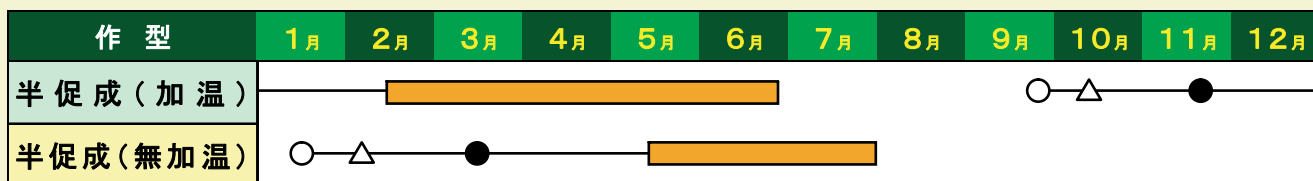
「ちばさんさん」の特徴

- 30g前後のオレンジ色の中玉トマト
- 大玉トマトに比べて、β-カロテンは約5倍、ビタミンCは約2倍
- 糖度が高く、食味が良好
- TMV、萎凋病（レース1）に抵抗性

登録品種名：「ちばさんさん」
登録番号：第17407号
品種登録者：千葉県

PVP

栽培暦



○：播種 △：鉢上げ ●：定植 ■：収穫

播種

- 播種期は9月下旬と1月中旬を標準とする。
- 播種量は本圃10a当たり2,300粒程度とする。
- 育苗箱に条間6cm、種子間1.5cmですじ播きする。
- 発芽までは地温28℃で管理する。
- 発芽後は地温を徐々に下げ、本葉1.5葉時には20℃前後とする。

育苗

- 本葉1.5葉時に直径10.5～12cmのポリポットに移植する。
- 地温は16℃以上に維持する。地温を下げないため、晴天時の午前中にかん水する。
- 肥料が切れて葉色が淡くなってきたら、くみあい液肥2号を200倍以上に希釈してかん水する。
- 育苗日数は約60日を目安とする。

定植

- 本葉8枚、第1花房開花時に定植する。
- ポリマルチをして条間130cm、株間40～45cm、1条植え（1,709～1,923株/10a）で定植する。
- 定植前に圃場に十分にかん水を行い、定植直後の萎れに注意する。

管理

- 昼温25～28℃、夜温はやや高め12℃で管理する。
- 各花房3～4花開花時にホルモン処理する。
- 節間が長いので、整枝誘引作業は早めに行う。
- 果房直下の側枝を4葉残して摘心すると、上位果房の糖度をより高めることができる。
- 第3花房開花期からかん水を始める。根量が少なく萎れやすいので、通常より多めの4L/週/株を目安に十分かん水する。
- 12段で花房の上2葉を残して摘心する。

施肥

- 肥培管理は大玉トマトとほぼ同様に行う。
- 施肥量は土壌診断に基づいて決める。
- 追肥の開始時期や回数は草勢により加減する。

肥料名	10a当たり	
	基肥	追肥
CDU化成 (15-15-15)	100kg	10kg×8回
過りん酸石灰 (0-17.5-0)	65kg	
完熟牛ふん堆肥	2t	
OK-F-3 (14-8-25)		

総施用成分量：窒素27.6、リン酸44.0、加里44.2kg/10a
完熟牛ふん堆肥は窒素肥効率が10%として成分量に加算した

防除

- 農薬散布はトマトの農薬登録に準じる。
- コナジラミ類の防除のため、定植時にスタークル粒剤又はアルバリン粒剤を1～2g植穴土壌混和する。定植後は早期防除を徹底する。
- 根腐萎凋病、褐色根腐病、青枯病等の土壌病害発生圃場では、抵抗性台木を用いた接ぎ木栽培をする（TMV抵抗性がTm-2型またはTm-2^o型の台木品種を使用）。
- 葉かび病、斑点病には抵抗性がないので、早期防除に努める。

収穫・販売

- 大玉トマトに比べると成熟が1週間以上早い、果実が十分にオレンジ色に着色してから収穫する。
- 収量は4,000～5,000kg/10aを目標とする。
- 200～300g詰めのパックやポリバッグで出荷する。
- 味の良さや栄養価について包装資材やPOP等を活用して明示する。
- 加熱すると甘味が引き立つため、調理用としても適していることをPRする。
- 直径3cm以下の果実は出荷しない。

※本資料に記載した農薬使用は平成22年11月1日現在の農薬登録情報に基づいています。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。